

各国森林・環境概況

各国の森林・環境と文化

日時：平成21年8月30日（日） 10:00～15:00

講師：竹中 千里、田中 広樹（あいち海上の森大学コーディネーター）

概況



「近年の中国の森林の現状と課題」

中国では、1993年より一部の森林地域が保護されている。住民は燃料確保のため山へ入り、そのため山が荒廃し河川へ悪影響が出る。政府は人間を排除し植林を行い、森は少し戻ったが、黄河付近の乾燥地帯で植林すると地下水位が下がり、農業は干ばつ被害を被っている。故に「植林」が本当の意味で解決策となるかは今後の課題。

「タイのハーブ」

タイ国は、平野が多く若干の山岳地帯がある。気候は熱帯に属し、平均気温 28℃程で様々な種類のハーブが育つ。ハーブは薬や料理に使う。マサマンカレーを試食。

（海外の受講生）

「内モンゴル東部の環境問題-ホルチン砂漠を中心に-」

内モンゴル砂漠化は、砂嵐の原因として指摘されている。ホルチン砂漠は元々美しい草原だったが、「半農半牧」による開拓の拡大で土壌がやせ、植生が破壊された。日本の NGO による活動、政府の「退耕還林」の政策があるも、土壌の回復は難しい。

(コーディネーター:田中広樹)

「森は水のふるさと(豊田森林組合の取組み)」

木材需要の変化に伴い、木材価格と搬出経費のバランスがとれず林業は衰退している。一方で、環境への負荷が深刻化し森林の整備が不可欠だが、森林所有者は経済的に余裕がなく、また必要性を感じていないのが現状であり、森林所有者にその意識を持ってもらうよう定期的な説明を行っている。

「森林整備の実践活動」

ボランティア団体に入って活動しており、色々理論は学んだが、技術は今一步。自分の得てきたものを、再度実践活動で確認している。

「竹炭焼き活動報告」

活動目的は、浸入する竹林の除伐を通して県民に荒れた里山に関心を持ってもらい、保全活動に参加してもらうこと。活動内容は、窯入れ、窯出しと炭焼きを交互に実施する他、竹炭の販売、炭焼き体験活動、里山の現状や竹酢液利用法の学習講座など。

「みろくの森の保全活動を展開」

東海豪雨により崩壊した山林の復旧を、地元の山からドングリを採集し、児童による苗木の育成と植栽や人工林と自然林・間伐など、森の保全活動に取り組んでいる。

「海上の森での森林整備の取組」

海上の森とのかかわりは10年。海上の森の会に入り、森林再生のため、間伐、枝打を行い、広葉樹林の手入れも考えている。

「六所山自然観察会報告」

自然観察を行い、動植物の調査報告を行っている。低い標高にかかわらずブナ科植物の標本箱のようである。